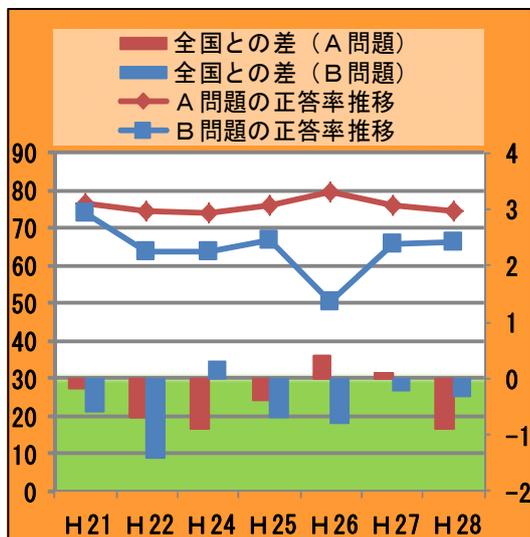


平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 結果のポイント



中学校：国語A		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	77.9	78.9	-1.0	
書くこと	73.2	73.7	-0.5	
読むこと	76.9	78.6	-1.7	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.2	73.9	-0.7	
全体	74.7	75.6	-0.9	

中学校：国語B		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	
書くこと	58.2	58.3	-0.1	
読むこと	66.2	66.5	-0.3	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
全体	66.2	66.5	-0.3	

中学校：国語A

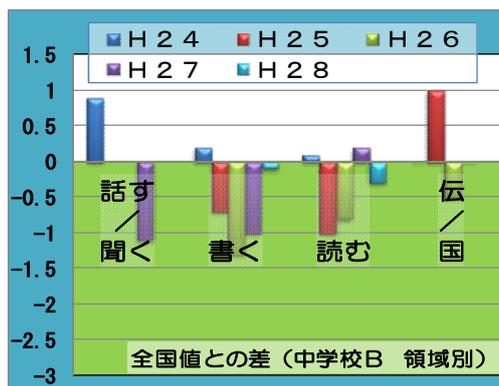
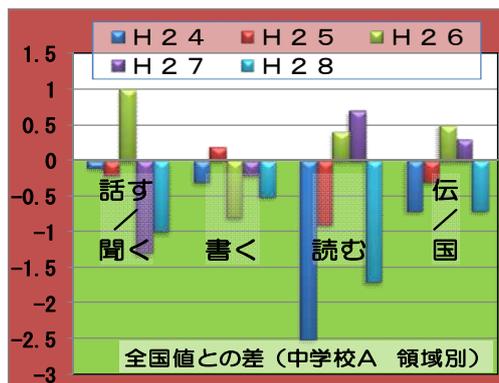
- 全問題数：33問（選択式23問・短答式10問・記述式0問）
- ・県平均正答率74.7%（選択式72.3%・短答式80.2%）で、平成27年度に比べ下降し、全国値を0.9ポイント下回った。
 - ・3領域1事項において、県平均正答率が全国値をそれぞれ0.5～1.7ポイントの幅で下回っている。

中学校：国語B

- 全問題数：9問（選択式5問・短答式1問・記述式3問）
- ・県平均正答率66.2%で、昨年度から上昇したものの、全国値を下回った。また、調査対象の2領域別において、全国値を下回った。
 - ・記述式の3問中、平均正答率については、2問で全国値を上回った。無解答率については全国値に比し、良かったのは1問である。

中学校：その他

- ・国語A・国語Bとも正答率が全国平均以上の生徒は50.2%（前年度53.3%）、国語A・国語Bとも平均未満の生徒は28.5%（前年度24.8%）であった。
- ・生徒質問紙「調査問題の解答時間は十分でしたか」で、「ちょうどよかった」と答えた生徒は全国値より高かった（国語Aでは38.8%《+8.1ポイント》、国語Bでは41.5%《+5.3ポイント》）。
- ・D層の生徒で、「解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか」に対し、「書く問題は全く解答しなかった」割合は国語Bで、13.7%であった（昨年度比+2.9ポイント）。



2 課題が見られた問題と指導改善のポイント

中学校：国語A

(1) 話すこと・聞くこと

①互いの発言を検討して自分の考えを広げる<指導事項・話すこと・聞くこと2年オ>

A7二 (正答率 59.5%・全国 62.0%)

- 西さんは折り紙だけに言える良さを挙げようとしている。
- 解答類型4の反応率は32.2%である。
【黒板にまとめた意見】を基にしてそれまでの話合いの経緯を踏まえることができなかつたため、また、「さらに付け加えたい意見」を述べるという話合いの目的が理解できなかったためと考えられる。
- 話合いの際には、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げる必要があるが、その際、異なるものの見方や不足していた視点などに気付くように指導することが大切である。
- 本問のように、互いの発言の内容を整理した図や表を用いる、話合いの動画を用いて、互いの発言について検討する、などの学習活動が考えられる。
- 指導に当たっては、平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A1二、平成26年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A6一に係る授業アイデア例を参考にすること。

一緒に行くことで交流が深まるのは共通

候補	長	短所
和太鼓	一緒に演奏することを通じて交流が深まる。 誰にでも音が出せる。	準備や片付けに手間がかかる。 音が大きいので、隣の教室への配慮が必要。 上手に折るのは難しい。
折り紙	折り方を教えることを通じて交流が深まる。 どこでも手軽にできる。	

【黒板にまとめた意見】

7 前出さんの学級では、外国の中学生との交流会のときに和太鼓を演奏するか、折り紙を折るかについて話し合っています。次は、【黒板にまとめた意見】をもとに、さらに付け加えたい意見について隣の席の人と話し合っているところです。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。() の中は、頭の中を考えたことを表します。

場面①

折り紙の方がよいと思う。既に出されている長所に付け加えて、言葉でうまく説明できなくても動作で折り方を伝えられるということも学びたいと思うんだけど、どうかな。

前田さん 西さん

西さんも私と同じで、折り紙に賛成なんだな。でも、動作で伝えられるというのは和太鼓にも共通していて説得力が足りないな。

場面②

私も折り紙の方がよいと思う。でも、動作でやり方を伝えられるというよりは、和太鼓にも言えるよね。折り紙だけに言えるよさを付け加えたいな。

前田さん 西さん

確かにそのとおりだな。

二 場面②のあと、西さんは、学級全体へ向けた発言をします。発言の内容として最も適切なものを、次の一つ選びなさい。

1 一緒に演奏することを通じて交流が深まるので、和太鼓がよいと思います。

2 演奏している様子を写真撮影することができるので、和太鼓がよいと思います。

3 作ったものを記念として持ち帰ることができるので、折り紙がよいと思います。

4 折り方を教えることを通じて交流が深まるので、折り紙がよいと思います。

折り紙だけの良さを発信したい、という思い。

【参照】「平成28年度全国学力・学習状況調査報告書」45～47ページ

(2) 書くこと

①文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く<指導事項・書くこと2年エ>

A4一 (正答率 64.5%・全国 64.7%)

- 文章を読み返し、文の使い方などに注意して書くことができるかどうかをみる設問である。
- 平成25年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語A3二(1)で、「文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかをみる」ことに課題が見られたことをうけての出題。
- 解答類型2の反応率は21.1%である。これは、一つの文の中に二つの内容があることは捉えているが、二つの内容の文の中での役割の違いや書き直した意図については理解できていないためと想定される。また、「引用」というような国語科の学習用語を十分に理解していないということも予想される。
- 山田さんの文を整理すると
 - ①南極点は -50°C 、北極点は -18°C 。
 - ②一般に海と陸とでは、陸の方が冷たくやりやすい性質がある。
 - ③標高が高い方が気温が低くなる。
 - ④南極点は大陸にあり、北極点は海にある。
 - ⑤南極点の標高は2800メートルで、北極点は海面と同じ。

となるが、推敲まへの文章では、③の内容と④の内容とが一つになっていて、わかりにくい文になっていることが分かる。

- 推敲する際には、読み手の立場から見直すように指導する必要がある。その際、語句や文の使い方、取り上げた事例等が読み手にとって分かりやすいかなど、具体的な観点を示して指導することが大切である。
- また、実際の指導にあたっては、本問を教材として、書き直す意図や適否について互いに検討し合ったり、書き直す前後の違いについて意見を出し合ったりする学習活動も有効である。

4 専門的な語句を一般的な語句に言い換えて分かりやすくするため。

3 異なる二つの内容を整理して分かりやすくするため。

2 引用と自分の意見を区別して分かりやすくするため。

1 時間の流れに沿って内容を並べ替えて分かりやすくするため。

一 山田さんは、自分の答えを読み返して、どのように直しました、その意図を述べなさい。

4 山田さんのグループでは、北極と南極について調べたことを、「O&A」(Question and Answer: 質問と、それに対する答え)の形式でまとめています。次は、「北極点と南極点では、どちらの平均気温が低いのか?」というO(質問)に対して作成している「山田さんの答え」と「鈴木さんの答え」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

それぞれの文の働きを的確に分析する力も必要

【山田さんの答え】

南極点です。

1年間の平均気温は、南極点では約-50℃ですが、北極点では約-18℃です。一般的に、海と陸とを比べると、陸の方が冷たくなりやすいという性質があります。また、標高が高い方が気温が低くなり、実際に、南極点は大陸にありますが、北極点には海や氷が広がっています。そして、南極点の標高は約2800mですが、北極点はほぼ海面と同じです。

【鈴木さんの答え】

北極点は「海」にあり、南極点は「大陸」にあります。一般的に、海より陸の方が冷たくなりやすいという性質があります。また、南極点は北極点より標高が高く、標高が高い方が気温が低くなります。1年間の北極点の平均気温は約-18℃ですが、南極点は約-50℃です。

(3) 読むこと

①文章の構成や展開について自分の考えをもつ<指導事項・読むこと1年エ>

A6二 (正答率64.7%・全国67.3%)

- 筆者はまず、「自然界には優れた『包装』がたくさんあります。」と述べた上で、その具体的な例として「蓮の種」「動物の卵」などを挙げ、その仕組みを説明している。
- 解答類型1の反応率は17.4%である。これは、文章中の「開発」や「仕組み」という言葉に着目することはできているが、それらがどのように用いられているのかについて適切に捉えられなかったものと考えられる。
- 説明的な文章を読む際には、文章の構成や展開、表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えをもつことが大切である。そのような読みに関する視点を持つことが読む力の汎用性を高め、初見であっても展開や表現上の特徴を的確に捉える力を伸ばすことにつながる。
- また、指導の具体としては、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けることができるようにすることが挙げられる。例えば、図や表を用いながら情報を整理して段落ごとの内容を捉え、文章全体がどのように構成されているかについて自分の考えをもつなどの学習活動が考えられる。

【参照】「平成28年度全国学力・学習状況調査報告書」42～44ページ

6 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(石谷孝祐「水口紙」、『大須賀弘「今日からモノ知りシリーズ トコトンやさしい包装の本」による。])

(石谷孝祐「水口紙」、『大須賀弘「今日からモノ知りシリーズ トコトンやさしい包装の本」による。])

二 この文章について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 生物の卵や種の成長を、開発の仕組みという観点で捉えている。

2 生物の卵や種の栄養を、商品の品質という観点で捉えている。

3 生物の卵や種の包み方の違いを、人間の呼吸という観点で捉えている。

4 生物の卵や種の仕組みを、人間が行う包装という観点で捉えている。

②奥付を使って本についての情報を得る<指導事項・読むこと1年カ>

A⑧二 (正答率 57.1%・全国 62.4%)

- ・本問は、奥付の特徴や役割について理解したり、資料を活用するときの留意点について、奥付を使って考える力を見たりする設問である。
- ・【奥付】から、この本の発行は2003年であり、現在から10年以上たっている。この資料集を活用する場合、掲載された内容が、いつの時点のものであるのか、等に留意すべきである。
- ・解答類型1の反応率は10.7%である。これは、著者と発行者の違いについて正しく理解していないものと考えられる。著者は、本の文章を書いた人、発行者はその本を発行する場合の代表者というところができるように指導しなければならない。
- ・解答類型4の反応率は23.8%である。
【奥付】に「無断で複写・複製すること」を禁じる内容が書かれていることは捉えているが、著作権の尊重や保護については理解できていないものと考えられる。このことは書くことの指導にもあたるので留意されたい。

1 この資料集を書いたのは青木太郎さんなので、内容に興味をもった場合は青木太郎さんの他の本も参考とする。

2 この資料集は発行から10年以上たつたので、資料集の中の情報が自分の目的に合っているかどうか確かめる。

3 この資料集の内容が難しく分らなかった場合は、発行所に依頼して別の本に取り替えてもらう。

4 この資料集は無断で複写・複製することが禁じられているので、引用する際には書名や著者名などを書かない。

【奥付】

日本の市町村

定価はカバーに表示してあります。

2003年4月10日 初版第1刷発行

著者 西田夏子

発行者 青木太郎

発行所 株式会社 太陽の本社
〒100-6543
東京都千代田区中央3-2-1

印刷 かすみ印刷

製本 タイガー製本

落丁・乱丁がありましたらお取り替えます。
本書を無断で複写・複製することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。

8 次は、「日本の市町村」という資料集の巻末にある「奥付」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

- ・情報を収集する際には、書かれている情報が目的に合っているかどうかを確かめるように指導する必要がある。資料集や年鑑の「目次」や「索引」などに着目して、自分の求めている情報を得ることができそうか見当を付けたり、「奥付」の発行年月日を目安にして、示されているデータの時期を確認したりするなどの学習活動が有効である。
- ・引用する際には、小学校での学習を踏まえて、かぎ（「」）でくくることや出典を明示することなど、著作権を尊重し保護するように指導する必要がある。

【参照】「平成28年度全国学力・学習状況調査報告書」49～50ページ

(4) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項

①文脈に即して漢字を正しく書く<指導事項・伝・国2年(1)ウ(イ)>

A⑨一2

今までにないドクソウ的な考え方だ。

- ・「独創」と書いている生徒は22.7%であり、「独」のみ正しく書いている生徒は59.4%で、正答の約三倍の生徒がいたということになる。二つの字ともに小学校第6学年の配当漢字である。
- ・誤答としては、「独走」、「独奏」などが挙げられる。漢字には、いくつかの意味があることを踏まえ、熟語におけるそれぞれの意味を正しく捉え、書くことの力が問われている。
- ・指導として、漢字単体で考えさせるのではなく、文脈に即した語として正しい字を使用する機会を様々な形で生徒に与えることが必要である。

②語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う<指導事項・伝・国1年(1)イ(ウ)>

A⑩三ウ/オ

ウ 弟子を手塩に(1まいて 2ひいて 3かけて 4にぎって)育てる。 60.2%
オ 会長候補として白羽の矢が(1立つ 2刺さる 3飛ぶ 4向かう)。 49.1%

- ・ウの解答類型1の反応率は25.8%、オの解答類型3の反応率は28.1%である。これはいう慣用句の意味が

理解できていないものと考えられる。

- ・慣用句は、基礎的な知識として覚えておくべきものである。そのためにも、普段から使用する場面を意図的に作る、読書をしてその中で、基礎的な言葉の知識を付けていくことが大切である。
- ・また、教師が意識的に慣用句やことわざなどを用いて話したり、掲示物や配付物に取り入れたりするなど、言語環境を整えることも効果的である。
- ・さらに、覚えるべき事項は徹底して覚えさせる指導（授業時間の取り立て指導、朝や放課後の補充学習、家庭学習等）も重要である。
- ・指導に当たっては、平成21年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A8三、平成24年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A7三、平成26年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A8三に係る授業アイデア例を参考とすること。

③辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える<指導事項・伝国1年(1)イ(イ)>

A⑨四ア/イ (正答率 59.5%・全国 60.3%/正答率 60.1%・全国 62.8%)

- ・解答類型4の反応率はアが25.0%、イが26.5%である。一つの漢字がもつ複数の意味を熟語の意味と結び付けて適切に捉えられなかったものと考えられる。
- ・漢字には、一つの文字に複数の意味が備わっているものが多くある。漢和辞典を用いて調べる学習活動などを通して、熟語の意味と結び付けながら適切に捉える必要がある。
- ・また、語句のもつ辞書的な意味を確認するだけでなく、文脈に即して意味を捉えたり、適切に用いたりすることができるように指導することも大切である。
- ・さらに、例示されている熟語以外で、その意味を使った熟語はないのか、など派生的な指導も考えられる。いずれにせよ、辞書等を使用させながら、意図的に熟語の意味に触れる機会を中学校段階でも持つことが必要である。

④文の成分の照応について理解する<指導事項・伝国2年(1)イ(ウ)>

A⑨五 (正答率 52.9%・全国 50.8%)

- ・解答類型3の反応率は26.3%である。これは、指示語がどういふものかについて具体的な語句と結び付けて理解できていないものと考えられる。
- ・語順の違いによって伝わり方がどのように変わるのかについて考えることなどを通して、文の成分の順序に関心をもつことができるように指導する必要がある。
- ・また、主語と述語、修飾語と被修飾語などの文の成分の名称と結び付けながら確認することが大切である。
- ・平成27年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語A9四に係る授業アイデア例も参考とすること。

⑤文字の形や大きさ、配列に注意して書く<指導事項・伝・国1年(2)ア>

A⑥ (正答率32.1%・全国36.4%)

- ・【A】と【B】と比較すると「想」という字の字形を整えたり、用紙の大きさと文字のバランスに注意していることが分かる。
- ・書写の学習では、手本を臨書させるだけでなく、書いたものについて生徒が互いに評価し合う場面を設けることが考えられる。
- ・本問のような特徴的な事例を示し、全体で観点を確認した後、個人やグループで書いたものを検討するなどの学習活動が有効である。
- ・また、社会生活の中で見られる文字の大きさや配列の工夫などについて適宜取り上げ、目的や必要に応じて効果的に書くことを意識させることも大切である。
- ・大分県公立高等学校入学者選抜でも同様の主旨の問いが出題されている。様々な学力調査問題の動向から、求められている学力を再確認することも必要である。

六 大川さんは、意見発表会の題名の下書き「A」を、「B」のように書き直しました。どのように書き直しましたか。改善点の説明として適切なものを、あとの1から5までのの中から2つ選びなさい。

- 1 全ての文字を同じ大きさにして書き直した。
- 2 別の文字と見間違えないように字形を整えて書き直した。
- 3 書体を統一すること考えて全ての文字を行書で書き直した。
- 4 行の中心に文字の中心を合わせて書き直した。
- 5 用紙の大きさと文字数の関係に注意して書き直した。

漢字と仮名の大きさのバランスを意識させること

【参照】「平成28年度全国学力・学習状況調査報告書」47～60ページ

中学校：国語B

(1) 書くこと・読むこと

①文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く

1 次の「博物館の暮らし(裏)」と「博物館の暮らし(表)」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【博物館の暮らし(裏)】

「伝統文化」というと遠い存在のように感じられますが、実は今の暮らしの様々なところに息づいています。「暮らしの中の伝統文化展」の第1期は、「うるしの世界」を取り上げます。私たちの暮らしの中にある漆のよさを実感してみませんか。

うるしの世界
おわんや重箱などに代表される漆製品は、優美なだけでなく、丈夫で長持ちする実用性の高さも兼ね備えており、私たちの暮らしの中で育まれてきたものです。

展示内容(1階展示室)

展示コーナー② 原料としての漆の性質
展示コーナー① 漆製品の歴史
展示コーナー③ 漆製品の製造工程
展示コーナー④ 暮らしの中の漆

表裏を比較し、工夫や効果を探る手がかりとする。

それぞれの工夫や効果を具体的に挙げる

【博物館の暮らし(表)】

暮らしの中の伝統文化展
第1期
うるしの世界
6月21日(土)～6月19日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時
休館日：月曜日
入館料：一般300円 大学生・高校生200円 中学生以下無料

第2期：「和紙の世界」6月25日(土)～7月24日(日)
第3期：「織物の世界」7月30日(土)～8月28日(日)

草木市立博物館
〒900-9859 草木市南町7
電話 000-123-xxxx
http://www.hakubutsukan.xx.jp

<指導事項・書くこと2年ウ> <指導事項・読むこと2年ウ>

BⅢ (正答率 68.2%・全国 68.0%)

- ・本問では、ちらしの表現の工夫とその効果について説明する場面を取り上げ、ちらしの表面と裏面から表現の工夫や効果について書かせる力を問うている。
- ・正答の条件としては、設問中の条件1～3を満たしているかということになる。
(正答例①) 表は、日付を大きく示していて、開催期間が把握しやすい。裏は、「……ませんか」と呼びかける表現を用いていて、親しみがわきやすい。(64字)
(正答例②) 表は、器のイラストの中に文字が書いてあり、タイトルの印象が強い。裏は、展示内容や関連イベントという項目が設けてあり、伝統文化展の第一期の全体像がよく分かる。(79字)
(正答例③) 表は、大きな器があり目を引きまします。裏は、図があり室内の順路が分かりやすくなっています。(44字)

これらは、文章の構成や表現の工夫を捉え、その効果について根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことができているものである。

- ・誤答のうち、「【博物館のちらし(表)】と【博物館のちらし(裏)】の表現の工夫と、その効果を具体的に書いて」いないものが22.5%あった。

(誤答例①) 表は、開館時間や料金、場所について重要なことが書いてあります。裏は、うるしや関連イベントの内容について書いてあります。(60字)

表現の工夫は捉えているが、その効果について書くことができていない。

(誤答例②) 表は、日付や場所が大きく書かれていてよい。裏は、展示内容や関連イベントが書かれていてよい。(46字)

表現の工夫は捉えているが、その効果について具体的に書くことができていない。

(誤答例③) 表は、工夫がたくさんしてあるので、見た人の印象に残るという効果がある。裏は、表と違った工夫をしているので、興味がわきやすいという効果がある。

表現の工夫を具体的に書いていない。

- ・文章の構成や展開、表現の仕方とその効果について考えることは、
ア 様々な文章を目的に沿って読むこと
イ 自分で文章を書く際に目的に応じて表現の工夫をすること
の力を付けることになる。
- ・実際の指導として、ちらしやポスターなどを集め、構成や展開、表現の仕方について分析し、書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりするなどの学習活動、実際に学校生活などに関わるちらしを作成し、書き手の立場で表現の工夫について説明したり、読み手の立場でその工夫が効果的かどうかについて検討したりするなどの学習活動が考えられる。
- ・考えたことを文章にまとめる際には、どの部分に着目してどのような効果があると考えたのかなどについて、具体的に書くように指導する必要がある。
- ・平成26年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語に係る授業アイデア例 P.9～P.10、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」も参考とすること。

【参照】「平成28年度全国学力・学習状況調査報告書」64～68ページ

(2) 読むこと／書くこと・読むこと

設問二については、ここを根拠に

大量輸送もOK

これまでは、宇宙へ行くための方法として、スペースシャトルやソユーズなどのロケットを利用してきた。しかし、これらのロケットには大量の燃料などを積み込むため、荷物を多く積むことができなかった。それに代わって、電力で動く宇宙エレベーターを使えば、昇降機で大量の荷物やたくさんの人を宇宙に運ぶことが可能になる。

ロケットよりも安い費用

ロケットは、打ち上げに多くの費用がかかる。これに加え、一度使った機体の再利用も課題となっており、一度、宇宙エレベーターは昇降機から供給される電力で動かすことが想定されており、また、長い期間にわたって繰り返し使用することが可能なので、安い費用で宇宙に行くことができるようになる。

誰でも宇宙へ

現在、宇宙飛行士になるためには、健康面や科学的な知識、語学力などに関する様々な資質が求められる。しかし、宇宙エレベーターは安全性が確保されれば、地上のエレベーターと同じように乗ることができると考えられている。宇宙エレベーターを使えば、誰でも宇宙に行くことができるようになるかもしれない。

宇宙エレベーターイメージ

宇宙ステーションから地上とは反対側に伸ばされたケーブル

宇宙ステーション

昇降機

地上

地球

高度約3万6000km

ケイブルで地上と宇宙を結ぶ

赤道上の高度約3万6000kmの位置に宇宙ステーションを建設すると、地球の自転と同じ約24時間で一周するため、地上からは静止しているように見える。この宇宙ステーションから地上へ向けてカーボンナノチューブを素材とするケーブルを伸ばし、ケーブルは反対側をやがて地上に到達し、地上と宇宙を結ぶ一本の長いひもになる。このケーブルに、モーターで動く昇降機を取り付けて人や物資を運ぶようにするのが宇宙エレベーターである。ただし、地上側に行きかえりケーブルを伸ばす、その分、地球に引っ張られる力が強くなり、宇宙ステーションは地球に落ちてきてしまう。そのため、宇宙ステーションから地上とは反対側へもケーブルを伸ばしては反側を引っ張る必要がある。

新たな物質の発見

宇宙エレベーターが想像世界だけの技術と考えられていた理由の一つは、ケーブルを作るのに必要な素材がないことだった。しかし、1991年にカーボンナノチューブという物質が発見された。カーボンナノチューブは炭素でできた物質であり、非常に軽く強いという特性をもっている。この強いつよさを宇宙エレベーター実現の可能性が高まった。現在は、鉄の100倍の強度にすることを目指して研究が進められている。

イラスト

▲カーボンナノチューブの構造

写真

▲宇宙から見た地球

写真

▲スペースシャトル(左)とソユーズ(右)

写真

▲宇宙エレベーター

写真

▲宇宙エレベーター

写真

▲宇宙エレベーター

2 高橋さんは、次の「雑誌の記事」を読んで宇宙エレベーターに興味をもち、調べています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【雑誌の記事】

もう夢物語ではない！ エレベーターで宇宙へ

地上と宇宙を結んで、人や物の行き来を可能にする「宇宙エレベーター」。これまでは『小説』や『アニメ』に登場する、空想世界だけの技術と考えられていたが、今や実現可能な技術として期待されている。

本問では、雑誌の記事の構成や内容を理解し、課題を見出し、その解決のために学校図書館を活用してどのように情報を収集するかについて考えるかということについて問うている。

①文章の構成を捉えること<指導事項・読むこと1年エ>

B2-1 (正答率 64.4%・全国 64.9%)

- ・Aには、仕組みと実現の可能性、Bは仕組みを図示したもの、Cは利点書かれている。
- ・解答類型1の反応率は14.8%である。BがAの内容を補っていることは適切に捉えられなかったためと考えられる。
- ・解答類型4の反応率は11.5%である。Cが宇宙エレベーターに係る利点について述べていることは適切に捉えられなかったものと考えられる。
- ・それぞれの部分に書かれている内容については、理解しているが、他の部分とどのように関係してくるのか、ということについては、理解できていないということである。
- ・説明的文章には、図表やグラフ、写真やイラストなどの資料が使われていることがある。図表が文章の本文のどの部分と関連しているのかを確認し、文章全体の構成を捉えることができるように指導する必要がある。
- ・指導にあたっては、図表が使われている文章を読み、それぞれの図表の効果や働きを捉えるなどの学習活動が考えられる。
- ・説明や記録の文章を書く際には、図表などの効果的な使い方について考えるように指導することも有効である。

1 [A]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[B]で実現した際の具体的な利点を書いている。

2 [A]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[C]で実現するための具体的な課題を書いている。

3 [A]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[C]で実現した際の具体的な利点を書いている。

4 [A]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[C]で実現するための具体的な課題を書いている。

1 [A]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[B]で実現した際の具体的な利点を書いている。

2 [A]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[C]で実現するための具体的な課題を書いている。

3 [A]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[C]で実現した際の具体的な利点を書いている。

4 [A]で宇宙エレベーターの仕組みや実現の可能性が高まった理由を述べた上で、[C]で実現するための具体的な課題を書いている。

写真

▲宇宙エレベーター

1 【雑誌の記事】の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

② 目的に応じて文章を要約することができるかどうかをみる<指導事項・読むこと1年イ>

B②二 (正答率 64.2%・全国 64.0%)

- ・【雑誌の記事】それぞれの部分で
 - ア「大量輸送もOK」・・・大量輸送が可能
 - イ「ケーブルで地上と宇宙を結ぶ」・・・モーターで動く
 - ウ「ロケットよりも安い費用」・・・電力で動かす
 ということが述べられている。
- アから選択肢2、イウから選択肢4が正答となる。
- ・資料を読む際には、目的や必要に応じて情報を選択し整理することが大切である。線を引いたりメモを取ったりしながら、文章の一部分にとどまることなく、全体から情報を取り出すことができるように指導する必要がある。
- ・実際の指導にあたっては、目的に応じて必要な情報を取り出しなが資料を読み、取り出した情報を整理するなどの学習活動が考えられる。

二 高橋さんは、『雑誌の記事』の内容を次のような情報カードにまとめています。□に当てはまる内容として適切なものを、次の1から5までの中から2つ選びなさい。

宇宙エレベーターの建設方法

◎宇宙エレベーターはどのようにして建設するのか。

- ・ 高度約3万6000kmの宇宙ステーションから、地上へ向けてケーブルを伸ばす。地上とは反対側へもケーブルを伸ばす。
- ・ ケーブルに昇降機を取り付ける。

(出典)『科学と未来』平成28年5月号(日本科学未来社)

宇宙エレベーターの昇降機

◎宇宙エレベーターの昇降機にはどのような特徴があるのか。

(出典)『科学と未来』平成28年5月号(日本科学未来社)

1 地上と宇宙ステーションの間を約24時間で移動する。

2 大量の荷物やたくさんの人を運ぶことができる。

3 昇降機の壁はロケットの100倍の強度をもっている。

4 外から供給される電力でモーターを動かして昇降する。

5 地球と同じ速さで動き、どこからでも乗ることができる。

②課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える

- <指導事項・書くこと1年ア>
- <指導事項・読むこと1年カ>

B②二 (正答率 50.2%・全国 49.2%)

- ・課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える力を問う設問。平成25年度調査で、同様の課題が見られたことからの出題。
- ・【雑誌の記事】から課題を発見し、その課題解決のための情報収集の方法を問うている。
- ・正答の条件として
 - 条件① アに、『雑誌の記事』を読んで「宇宙エレベーター」について疑問に思ったことを一つ書いている。
 - 条件② アに、「なぜ」、「どのような(に)」、「どのくらい」という言葉のいずれかを使って、二十字以上、四十字以内で書いている。
 - 条件③ イに、必要な本の探し方を二つ書いている。
- ・条件①を満たした(アに書く内容は正答である)生徒は83.7%であるため、記事を読んで、そこから課題を見出すことはできていると考える。
- ・条件③を満たしていない(イに書く内容が正答でない)生徒は32.5%であり、本の検索の仕方を正しく書くことに課題があると言える。

(誤答例①) 宇宙についての本を探す。
 (誤答例②) 宇宙エレベーターについて書かれた本を探す。

- ・情報を収集しながら課題の解決を図るには、様々な情報手段、学校図書館などを活用する必要がある。課題の解決までの見通しをもち、状況に応じて適切な情報収集の方法を選択するように指導することが大切である。
- ・学校図書館の利用に当たっては、小学校での学習内容を踏まえ、日本十進分類法や本の配置についての知識を生かしたり、コンピュータを使って検索したりするなど複数の情報収集の方法を考えるように指導することが重要である。
- ・平成25年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B1三に係る授業アイディア例P.9～P.10、「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」P.35～P.36を参照のこと。

三 高橋さんは、宇宙エレベーターについて疑問に思ったことを、学校図書館で調べることにしました。あなたなら、自分が疑問に思ったことを、学校図書館のように調べますが、次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 「雑誌の記事」を読んで、宇宙エレベーターについてあなたが疑問に思ったことを、「なぜ」、「どのくらい」という言葉のいずれかを使って、二十字以上、四十字以内で一つ書きなさい。

イ アについて学校図書館で調べる場合、必要な本をどのように探しますか。本の探し方を二つ書きなさい。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

(3) 読むこと／書くこと・読むこと

3 次の「物語の一部」と「図鑑の説明」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【物語の一部】

（こまごまのあらすじ） 少年時代、ランプの明かりに驚いた巴之助は、ランプが光る。自分も光るランプで、暗かった村の家々が明るくなっていくのを楽しんでいたが、やがて町には電気が通りはじめた。

さてある日、巴之助がランプの芯を仕入れに大野の町へやってくる。五、六人の人夫が道のほとりに穴を掘り、太い長い柱を立てているのを見た。その柱の上には腕のような木が二本ついでいて、その腕には白い瀬戸物のだるまさんのようなものがいくつかがついていた。こんな奇妙なものを道のわきに立ててなにをするのだろう、と思いつつ先をゆく。また道は太い柱が立ち立って、それは電柱が腕木にとどまって鳴っていた。

この奇妙な高い柱は五メートルくらい間をおいて、道のわきに立っていた。

巴之助はついに、ひなたでうんを乾している人を見つけた。すると、うんやば「電気がやらいもんがこんどひけるだげな。せいでもう、ランプはいらんようになるだげな」と答えた。

巴之助はよくのこめなかつた。電気のことなどまるで知らなかつたからだ。ランプのかわりになるものらしいのだが、それならば、電気というものはあかりにちがいない。あかりなら、家の中にもせはいいわけて、なにもあんなどつともない柱を道のくろくに何本も立つておかないかと、巴之助は思った。

それから一月ほどたつて、巴之助がまた大野へ行く。この間立てられた道の太い柱には、黒い綱のようものが数本わたされて、黒い綱は、柱の腕木にのっているだるまさんの頭を、一まきして次の柱へわたされ、そこでまただるまさんの頭を、一まきして次の柱にわたされ、こうしてどこまでもつづいていく。

注意してよく見ると、ところどころの柱から黒い綱が一本ずつだるまさんの頭のところで割れて、家の軒端につなげられているのであつた。

「へへえ、電気がやらいもんはあかり、がとももんとおもうた、これはまるで綱やねん。雀や燕のええ休場所というもんよ」と巴之助が一人であざわらいながら、知り合の甘酒屋にはいつてゆくと、いつも土間のまの間の飯台の上につるしてあつた大きなランプが、横の壁のあたりに取りかたづけられて、あにはそのランプをすつと小さくしたような、④石油入れのついでない、変なかつたのランプが、丈夫そうな綱で天井からぶら下げられてあつた。

「なんだやい、変なものをつるしたじゃねえか。あのランプはどか悪くてもなかつたかやい。」

と巴之助はきいた。すると甘酒屋が

「ありや、こんどひけた電気というもんだ。火事の心配がうて、明るうて、マッチはいらぬし、なかなか便利もんだ」と答えた。

「へっ、へん、これんなものをぶら下げたもんよ。これじゃ甘酒屋の店をんだか開かぬけつた。客もへるだろや。」

甘酒屋は、相手がランプが光ることに気がついたので、電灯の便利などとはもういわずなかつた。

「なや、甘酒屋のとつあん。見なよ、あの天井のどこを、ながねんのランプの線であそこだけ真つ黒になつたら、ランプはもうあそこ居つてしまつたんだ。今になつて電気という便利なもんができたからと、あそこからはずされて、あんな壁のすみっこにひっかけられるのは、ランプがかわいそうよ。」

こんなふうで巴之助はランプの肩をもつて、電灯のよいところはみとめなかつた。

ところでまもなく晩になつて、だれもマッチ一本すらなかつたのに、とつぜん甘酒屋の店が真昼のように明るくなつたので、巴之助はびっくりした。あまり明るいので、巴之助は思わずしろをふりむいてみた。それは、

「巴之助さん、これが電気だよ。」

巴之助は顔をくしくして、ながいあいだ電灯を見つめていた。敵でもらんでいようなかつた。あまり見つめていて眼のなまが痛くなつた。だつた。

「巴之助さん、そういふやなんだが、ともランプで刀うちまはささないよ。ちよと外へきを出して通りを見せたらんよ。」

巴之助はちつと入り口の障子を開けて、通りをながめた。この家の店も、甘酒屋のと同じように明るい。電灯がともつていた。光は家の中にあつて、道の上までこぼれていた。ランプを見せられていた巴之助にはまがしすぎるほどのあかりだつた。巴之助は、くやに肩でいきまをなが、これも長い間ながめていた。

（新編小説「おれいんのランプ」による）

（注） ひけるだけなひけるのだらうだ。
（注） 道のくろく道のほし。

- ①目的に応じて必要な情報を読み取る
＜指導事項・読むこと1年カ＞
- B3二**（正答率 63.4%・全国 64.7%）
- 目的に応じて必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問いである。
 - 「2」と解答した生徒が 20.3%、「3」と解答した生徒が 11.2%である。
 - 【図鑑の説明】は石油ランプについてのページであるので、石油ランプについての言葉しか、分かることはできない。
 - 「1」～「3」はいずれも電気に関する記述となるので正答にはならない。
 - 文学的な文章は生徒にはなじみの薄い事柄や風習、道具などが描かれていたりするものもある。その際には、意味が分からない言葉を辞書で調べたり、叙述に関する知識を補うことができる資料を参考にしたりしながら読み進めることが大切である。
 - 必要な資料を生徒自身が収集するなど、主体的に学習を進めることができるように指導することも重要である。
 - 「複数の資料から必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる」問題として、平成 26 年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語 B 2二があるので参考とすること。

2 物語の一部に書かれている事柄について、「図鑑の説明」から分かることとして最も適切なものを、次の 1 から 4 までの中から一つ選びなさい。

【図鑑の説明】

石油ランプ

図鑑の主な明かりの変遷

行灯（江戸時代）
油を入れた皿に芯を浸し、火をつけて使う。

石油ランプ（明治時代から昭和初期）
行灯より明るい。が、部屋全体を照らすほどではない。

白熱電球（明治時代中期から現在）
明かりが揺れたり消えたりせず、部屋全体を照らす。

蛍光灯（昭和から現在）
白熱電球より明るい。消費電力が少なく長持ちする。

●使い方●

- 油つばに石油を入れる。
- ほやを口金から持ち上げて、芯に火をつける。
- 調節ねじで芯の長さを変え、明るさを調節する。
- ほやが黒く汚れたら、口金から外して内側を磨く。

③本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く

<指導事項・書くこと1年ウ><指導事項・読むこと1年カ>

B3三 (正答率 56.3%・全国 57.7%)

・本問は、関連する資料を参考にしながら物語の内容の理解を深める場面の設定をしている。

【図鑑の説明】を手掛かりにして、【物語の一部】を読み、分かるようになったことを

【図鑑の説明】を根拠として適切に取り上げて書く力を問うている。

・正答としては以下ようになる。

(正答例)

図鑑の説明から、天井が煤で真っ黒になっているのは、ほやの上の口から煤が出るため であることが分かりました。



○よく分かるようになったこと

天井が煤で真っ黒になっているのは、ほやの上の口から煤が出るためであること

○【図鑑の説明】

・誤答例としては以下ようになる。

(誤答例①) 「へんでこれんなもの」というところが、図鑑を見て分かるようになった。

【図鑑の説明】の内容を適切に取り上げて書くことができていない

(誤答例②) 真昼のように明るくなったところについてよく分かった。石油ランプのかさの部分で光が反射し、よりいっそう明るくなったということだ。

電灯に関する叙述をランプに関する叙述と混同している

(誤答例③) 「明かりが揺れたり消えたりせず、部屋全体を照らす」ことが分かった。

【物語の一部】の [] の中のどの部分についてよく分かるようになったのかを明確にして書くことができていない。

・文学的な文章を読む際に、必要に応じて語注や脚注、百科事典や図鑑などの資料を参考に得た情報を補足することによって、場面の様子などについてより想像を広げたり理解を深めたりすることができる場合がある。そのためには適切な情報収集の方法を身に付けることが大切である。

・資料から得た情報を踏まえることで理解が深まった内容について、根拠を明確にして説明し合うように指導することも重要である。その際、根拠として示した内容が自分の考えや気持ちを支えるものになるよう指導する必要がある。

・実際の指導に当たっては、「平成 21 年度【中学校】授業アイデア例」P.5、「平成 21 年度【中学校】報告書」p.221、「平成 25 年度【中学校】授業アイデア例」P.11～P.12、「平成 26 年度【中学校】授業アイデア例」P.13～P.14、等を参考にすること。



- 使い方●
- ① 油つぼに石油を入れる。
 - ② ほやを口金から持ち上げて、芯に火をつける。
 - ③ 調節ねじで芯の長さを変え、明るさを調節する。
 - ④ ほやが黒く汚れたら、口金から外して内側を磨く。

三 あなたは、「図鑑の説明」を読むことで、「物語の一部」の中のどの部分についてよく分かるようになりましたか。よく分かるようになった部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【物語の一部】の [] の中のどの部分についてよく分かるようになったのかを明確にして書くこと。

条件2 条件1で取り上げた部分について、どのようなことが分かったのかを【図鑑の説明】の内容に触れて書くこと。

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

（1）更なる言語活動の充実

①国語科は、児童生徒に付けたい力を付けるために、言語活動を単元全体で取り扱い、言語活動を通して指導事項を指導する教科である。言語活動を設定した授業改善が進みつつあるが、今後も、更なる言語活動の充実を図り、不断の授業改善を推進していくという方針は不変である。

※伝統的な言語文化や国語の特質に関する学習の際、取り立て指導を行うことは有効な手段である。
 学校質問紙「(72) 調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか」で肯定的回答は99.1%であった。
その取組を有効にするために、そのコンテンツの選択、指導事項の定着のための手段の構築が求められる。

※基礎基本の積み上げだけでは活用する力は向上しないことは言うまでも無い。

課題解決的な展開をめざす言語活動を行っているかどうかについての生徒質問紙

	質問と肯定的な回答の割合	H27	H28
66	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	56.3%	61.5%
67	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	50.0%	54.5%
68	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	63.2%	65.2%

生徒質問紙から、国語の授業改善に対する指導者の意識は高まっていると判断できる。ただし、B問題の記述式の設問については、正答率が70%を超えていないことから、記述の中に必要な情報が入っているのかなどを、的確に指導することが必要である。また、必要な情報は文章中のどこにあるのかを素早く見付ける力を付けることも必要であり、そのため、ある程度の字数のまとまった文章を、目的をもって読ませる指導が必要と言える。

②中学校国語科においては、付けたい力（指導事項）を明確にした単元が構築されるなど授業改善が進みつつある。しかしながら、以下のような問題点が見られることが多い。

- ▼言語活動が当該単元で付けたい力にふさわしいものでないこと
- ▼単元の評価規準と指導過程の評価規準に整合性がないこと
- ▼課題解決的な言語活動を設定しているように見えても、教師主導による詳細な読解から脱却

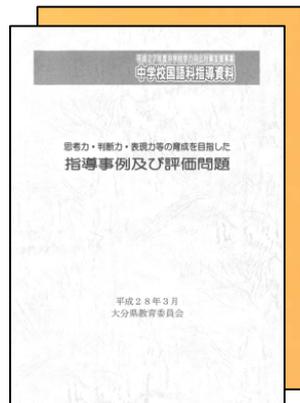
その解決のための基礎作業として、教育課程編成時に、

- ①マトリクス型の年間指導計画を作成し教材と指導事項を確認すること
- ②学習指導要領の言語活動例の確認すること

の2点は、必ず行うべきものである（①は年度内に随時見直しを行うことも重要）。

③また、望ましい言語活動や具体的に付けるべき力をイメージするために、

- 全国学力・学習状況調査の調査問題
- 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/>
- 中学校国語科指導資料（県教委作成）
- 公立高等学校入学者選抜学力検査等を参考にすることも必要である。



(2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

①目的に応じた言語の能力を身に付けさせるために、国語科の教科書だけでなく、多様な図書資料等（書籍、新聞、その他のメディアからの情報）を用いることが必要である。

②多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分のみを詳細に分析する読みの指導が可能となる。

※学校質問紙「(45) 調査対象学年の生徒に対して前年度までに、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか」・・・肯定的な回答 80.0%

③自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づけて読むことに指導に当たることが必要である。学習指導要領の言語活動例を参考にし、情報を活用して、条件に応じて自分の意見や考えを表現する活動の充実を図るとともに、考えを深めたり広げたりする「交流」の場面を単元の中に効果的に位置付ける指導が求められる。

例 本の帯やポップ作り ブックトーク ポスターセッション

※学校質問紙「(24) 調査対象学年の生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか」・・・肯定的な回答 15.8%→改善が求められる。

④また、不読者をゼロに近づける取り組みが必要である。

質問紙 「あなたはこの1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。」（単位は%）※県調査

	0冊	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~20	21~30	31以上	その他
県(28年度)	21.1	38.1	18.5	8.2	3.6	3.9	3.0	1.1	2.1	0.2
県(27年度)	17.3	39.9	19.5	8.8	4.1	3.8	3.3	1.1	1.9	0.3
県(26年度)	17.8	38.6	19.9	9.4	3.9	3.8	3.3	1.2	2.1	0.1

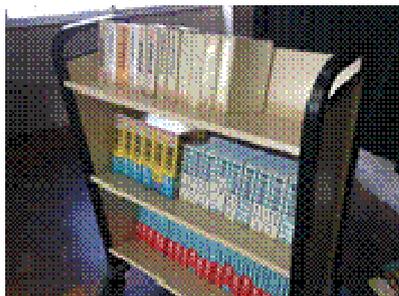
・1か月で1冊も読まないいわゆる「不読者」の割合は、昨年度から大幅に増加した。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な生徒の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、豊かな思考には豊かな語彙形成が不可欠であり、それを促すという視点で、読書指導を見直すことも必要である。

・生徒質問紙「(18) 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」

- ①だいたい週に4回以上行く 2.8%
- ②週に1～3回程度行く 7.2%
- ③月に1～3回程度行く 12.6%
- ④年に数回程度行く 22.4%
- ⑤ほとんど、または、全く行かない 54.8%

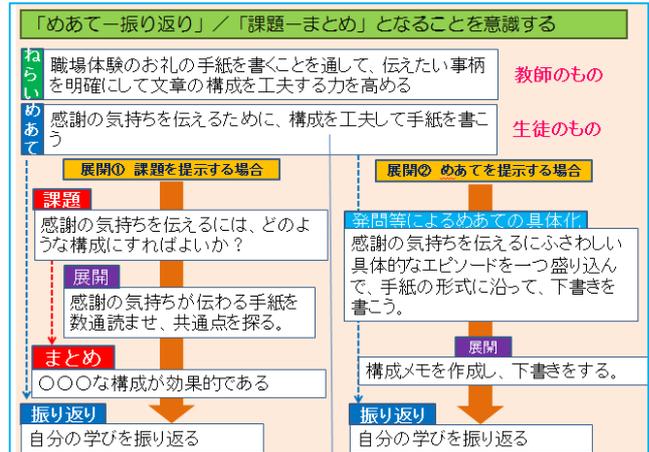
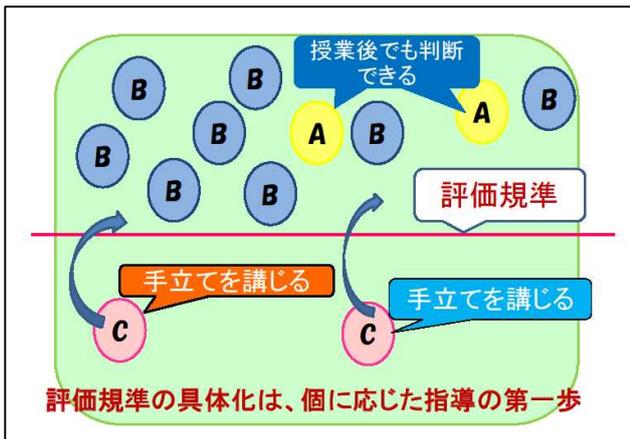
という結果である。自ら本に手を伸ばす生徒の育成を図る必要がある。

④また、言語活動を取り組むために必要な事典や辞書が生徒の手に取りやすい場所に設置することも必要である。



(3) 「めあて」の設定や指導にいかすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- ①単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準（概ね満足できる状況）を設定することが求められる。
- ②この具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、また、評価規準に基づき、「C 努力を要する状況」の生徒を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。
- ③学習の見通しをもたせ、学習の意味づけをさせることは有効であることから、「めあて一振り返り」、「課題一まとめ」を提示したり、考えさせたりすることは大切である。



(4) その他、国語科授業で取り組むべきこと

- ①必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。また、どのように思考するのかをきちんと理解させるためにも、例えば「要約」とはどのようなことであるのかを理解させておく必要がある。
- ②少なくとも、中学校で使用する教科書に掲載されている学習用語は、その学年で確実に理解させることが大切で、既習の用語は授業で使わせ、指導者があいまいな言葉を使わないようにしなければならない。
- ③また、小学校現場で行われているような学習用語の掲示も有効な取り組みである。
- ④言語活動の成果物を掲示や展示することも効果がある。作成したものを互いに見ることで、励みになるとともに、もの見方や考え方が広がる契機もなる。



- ⑤必要や目的に応じて、様々な記述をする活動をすることが求められる。記述は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域の力を向上させるのに効果がある。
- 例（話す・聞く）インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿等
- （書くこと）鑑賞文、図表などを用いた説明・記録、案内、意見文、批評文
- （読むこと）文章を読んで解釈し、自分の考え（感想や意見、評価、批評等）を明確に書くこと。目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

また、「活用」に課題がある場合に求められる工夫として、条件に即応して記述しなければならない場面を設定することがある。時間・字数・文章の形態や種類・文体（常体・敬体・一人称・三人称等）・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法（反復・倒置・比喩・反語等）・構

成等、条件を踏まえる必然性のある活動を設定する。

(5) 学校全体で取り組むべきこと

①漢字や語句、文法、表現技法等の習得

- ・漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。
- ・家庭学習等で行わせることも有効である。家庭学習の手順等を生徒に指導することはもちろん、家庭との連携をさらに密にしていく必要がある。

※学校質問紙と生徒質問紙との比較を行い、家庭学習が定着しているか、取組の検証を。

学校質問紙 92・96～100

生徒質問紙 21～25

②全校一斉読書や各教科における学校図書館の活用

- ・様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく科学的な読み物等にも手を伸ばすように指導する必要がある。
- ・また、学年が上がるに従って、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる（【例】右のような各新聞社から配信されるワークシートを短時間で行う）。そのために、国語科だけでなく、各教科や領域において、図書館の利活用の推進をしなければならない。
- ・また、第3学年では時間の確保が難しく、一斉読書を行わない学校が多い。望ましい読書習慣を身に付けさせる上からも、中学校における一斉読書活動の実施の必要がある。例えば、読書時間を確保するための工夫として以下のような取組が考えられる。



大分合同新聞のNIEのページより
<http://www2.oita-press.co.jp/nie/worksheet/>

読書時間の確保のための工夫の例

①読書活動とプリント学習を連続して行う。

- ・7:55～8:10 読書（生徒は登校後、すぐに読書を開始する）
- ・8:10～8:25 各教科の補充プリント

という時間で取り組む。これにより、生徒は最低15分間の読書を行うことになる。

②読書を行う曜日を固定しない。

朝の学習時間のうち、週数日を読書に充てる。ただし、読書をする曜日は固定せずに、考査等の計画を考慮しながら、読書を多く行う週とプリント学習を多く行う週とを設定する。

③生徒会活動と連動する。

生徒会（図書委員会）の主導で、昼休みに学年全体で読書をする時間帯を設定する。

(6) 地域や学校で取り組むべきこと

①全国学力学習状況調査についての研修会

- ・教科担任等が、全国調査の結果分析を行うことはもちろんであるが、これを今後の指導の充実に資するものにするために、学校や地域全体で、情報を共有し、指導改善のベクトルを揃えることが重要である。そこで以下のような研修会を、学校や地域で開くが必要になってくる。

(研修の例)

- ①調査結果を受け、学校や地域において、正答率が低い問題や無解答率が高い問題を参加者全員で解く。
- ②「解説資料」「調査結果資料」中にある問題についての解説や解答類型等を読む。
- ③上記①②から、何が指導の重点になるのかを協議する。



②自校採点や各地域での採点

- ・上記①の研修をより効果的なものにするために、正式な結果を待つのではなく自校や各地域で採点を行うことも一考すべきである。採点することで、一人一人の定着状況を把握・分析し、個に応じた指導に生かすことができ、授業改善が促進されるという利点がある。
- ・また、採点を通して、学習指導要領を踏まえた学習内容や、国がどのような学力を求めているのかを改めて知ることができる。
- ・自校や地域で採点をするとき、特に留意すべきなのが、一部の人間のみで行わないということである。自校や地域の課題を知るには、対象学年の担任や教科担任だけでなく、基本的に全員で行うことが不可欠である。